

第 1 編

介護支援分野

介護保険制度は、高齢者介護を支える仕組みとして、2000（平成12）年4月から実施されていますが、その背景には、我が国の急速な**高齢化**と**介護**の問題、**産業構造の変化**、**経済成長の鈍化**が大きく影響しています。

「高齢化」は「介護」に関する様々な問題を引き起こします。介護を要する「要介護者」は高齢になるにつれて発生率が高くなり、また長寿社会であればあるほど「**介護の長期化**」の問題を生じることになります。

「産業構造の変化」は、都市部に働き盛りの人を集中させる結果となり、同居家族の減少や核家族化は、「**介護力の低下**」を引き起こします。

また、「経済成長の鈍化」による税収の減少は、福祉の財源を圧迫することになり、「措置制度」などの見直しが必要となります。このようなことから、介護の財源として「介護保険制度」が導入されたのです。

本編では、介護保険導入の背景から学習を始めます。ここには、「数字」が多く登場していますが、必要なのは「**おおざっぱな数字**」です。細かな数字を覚えようとするよりも、「**全体の流れ**」に注目して学習する方が学習の効率が上がります。ただし、利用者負担割合や認定有効期間など、確実に覚えておくべき数字があります。

なお、本書では、本文だけでなく右欄も必ず目を通しておいて欲しい大事な部分です。